

備え 3.11から 災前の策

津波のひままれた岩手県大船渡市の福喜菜地区に、赤や黄色のカラフルな拙つ立小屋が立ち並んでいる。地元の建設社社長の片山和良さんと会社が、がれきを片づけてつづけた資料館。欄干は、津波が襲った際の写真や、止まったままの時計などが展示され、自由に回ることが出来る。

大船渡の資料館

津波のひままれた岩手県大船渡市の福喜菜地区に、赤や黄色のカラフルな拙つ立小屋が立ち並んでいる。地元の建設社社長の片山和良さんと会社が、がれきを片づけてつづけた資料館。欄干は、津波が襲った際の写真や、止まったままの時計などが展示され、自由に回ることが出来る。

がれきの小屋 残したい

と、そは、町並み大なりなことになる。一軒一軒、分らない。写真、資料、役に立つものが残したい。と、資料館片山和良さんに聞いた。写真、資料、役に立つものが残したい。と、資料館片山和良さんに聞いた。写真、資料、役に立つものが残したい。と、資料館片山和良さんに聞いた。



「何とかが残したい」と資料館片山和良さんと岩手県大船渡市で撮影。写真、資料、役に立つものが残したい。と、資料館片山和良さんに聞いた。

第125回 東日本大震災5年 伝え続ける

東日本大震災から11日で5年。街の復興は少しずつ進んでいるが、一方で「震災の風化」も言われるようになってきた。そんな中、大災害の記憶を次世代に引き継ごうと、各地であの手この手の地道な伝承活動が行われている。あの日、何が起ったのか。何を教訓として得たのか。岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市と七ヶ浜町、福島県南相馬市の4カ所を訪ねた。（戸川祐馬、石智裕保）

気仙沼の美術館

べし、外側に設置された自転車、外側に設置された自転車、外側に設置された自転車、外側に設置された自転車。



展示室「震災と被災者の生活」。宮城県気仙沼市で撮影。展示室「震災と被災者の生活」。宮城県気仙沼市で撮影。展示室「震災と被災者の生活」。宮城県気仙沼市で撮影。

「被災物」街の未来像問う

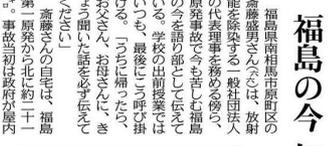
見れば、くわかんもの。か、津波の被害を問われ、構図に入れた写真は、被災者の生活、被災者の生活、被災者の生活。

記憶消さぬため

展示。屋外には、福喜菜小学校舎高台へ通じる道に直接絡んでいた。福喜菜小学校舎高台へ通じる道に直接絡んでいた。福喜菜小学校舎高台へ通じる道に直接絡んでいた。



放射線除染作業の仮置き場の前で、原発事故当時を振り返る福喜菜勇さん。福喜菜勇さん。福喜菜勇さん。福喜菜勇さん。



福島県の今知ってほしい。福島県の今知ってほしい。福島県の今知ってほしい。福島県の今知ってほしい。

福島の今知ってほしい。福島の今知ってほしい。福島の今知ってほしい。福島の今知ってほしい。



紙芝居の結について意見を出し合うメンバー。宮城県七ヶ浜町で撮影。紙芝居の結について意見を出し合うメンバー。宮城県七ヶ浜町で撮影。

七ヶ浜の住民有志

町民の約100人がボランティアで宮城七ヶ浜町では、住民有志が震災を題材にした紙芝居。紙芝居の結について意見を出し合うメンバー。宮城県七ヶ浜町で撮影。

南相馬の語り部

福島県南相馬市原町区の高藤勇さん。高藤勇さん。高藤勇さん。高藤勇さん。高藤勇さん。高藤勇さん。高藤勇さん。高藤勇さん。

助け合う心 紙芝居に

宮城七ヶ浜町では、住民有志が震災を題材にした紙芝居。紙芝居の結について意見を出し合うメンバー。宮城県七ヶ浜町で撮影。

(c) 中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています